

施策・事業検証シート（交付金）

粕屋町総合戦略

作成日 平成28年7月22日
 検証日 平成28年7月29日

総合戦略	進捗管理対象年度	平成 27 年度	担当部局	住民福祉部
基本目標	2	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	担当課	子ども未来課
施策の基本的方向	(1)	安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくりの推進と支援の充実	担当課	健康づくり課
推進施策	①	妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実		

交付対象事業		交付金の種類：地方創生先行型交付金（基礎交付分）		交付額：20,486千円	
交付対象事業名	子育て支援事業		構成事業	(事業コード 10320309)	(事業コード 10410303・10410304)
			(1) こども館整備事業	(2) 乳幼児発達支援事業	
予算科目	(1)	一般会計	3	款	2
	(2)	一般会計	4	款	1
					3
					目
事業初期	平成27年4月		事業終期	平成28年3月	
			予算区分	H27当初（4月）及びH27補正（6月）	
交付対象事業の概要	粕屋町は年少人口割合18.8%、合計特殊出生率が2.03と、非常に子育て世代が多い町であるが、交付金を活用し、子育て支援施策の拡充（こども館整備・乳幼児発達支援）を図ることで、より妊娠・出産・子育てしやすい環境を整備する。				
重要業績評価指標（KPI）	指標	指標値	目標年月	実績値	本事業により、安心して子育てできる環境づくりに寄与したと考えるが、近年減少傾向にある母子手帳発行件数の増加には繋がらなかった。
	母子手帳発行件数	790件	平成28年3月	722件	

構成事業		(1) こども館整備事業	(2) 乳幼児発達支援事業
事業名	子どもの遊び場、学びの場、体験の場、子育て世代の交流の場、子育てに関する情報発信の場として、子育て支援拠点の環境整備を図る。		発達に遅れや偏り等のある乳幼児の早期発見・早期療育、保護者の理解促進を支援し、子育て世代が子どもの特性を理解し、安心して子育てができるようにする。
目的	・0歳～18歳までの児童及び保護者（粕屋町に在住・通学・在勤） ・子育て支援のボランティア		・0歳～6歳（就学前）までの乳幼児及び保護者（粕屋町在住）
対象者	児童館と子育て支援拠点施設の機能を併せ持つ「かすやこども館」の施設整備を行い、開館に向けて準備をする。		健康センターにおいて、乳幼児健診や保護者からの相談により、乳幼児に対して発達相談を実施し、発達相談・助言等を行う。更に療育が必要と判断された乳幼児には、個々の発達に合わせた療育により、子どもの発達支援と保護者の子育て支援を行う。
事業概要	平成28年5月16日開館に向けて、運営の基本方針に基づく子育て支援拠点のあり方を検討し、施設整備や運営準備を行った。 施設整備や運営について、公募住民の委員による外部検討会議を開催し協議を重ね、意見を取り入れた。		発達・言語相談開設日を増やすことで、予約を取りやすくなるよう改善した。また、療育形態を工夫し、受入れ人数を増やすなど、実態に合わせた計画により、療育が必要な乳幼児が適切な時期に療育へ繋がるよう支援した。
事業実績	【外部検討会議の開催数】 H26…4回、H27…4回 (運営の基本方針) 「集う」子ども・親子・ボランティアが集い交流を行う。 「育む」遊び・学習から子どもの自主性を育む。 「得る」子育てや学校などの悩みを気軽に相談して必要な情報や支援を得て、安心を得る。 【開館時間】 ○午前9時～午後8時 ※小学生は午後5時まで(6月～9月は午後6時まで) 【休館日】 ○火曜日、毎月第2日曜日及びその翌日、年末年始	【相談業務】 ①発達相談：臨床心理士による精神発達面に関する相談・評価・助言等 ②言語相談：言語聴覚士による主に言語発達に関する相談・評価・助言等 (集団療育) ①発達ルーム「つくしんぼ」(週3回)1歳半～3歳 ②発達ルーム「さくらんぼ」(週2回)3歳～4歳 ③親子ふれあい教室(月2回)1歳半～4歳 【相談人数】(延べ人数) 発達相談 H25/526人、H26/586人、H27/609人 言語相談 H25/ 81人、H26/121人、H27/139人 【集団療育人数】(実人数) H25/ 86人、H26/ 90人、H27/105人	
事業経費	H27事業費：16,622,519円 (事業費の内訳) ・外部検討会議等に係る経費：216,423円 ・遊具等の備品購入に係る経費：16,406,096円 (※建設費は繰越明許のため含まない) 交付金を充当した経費…10,000,000円 (交付金の内訳) ・机、椅子、事務用品等：6,026,680円 ・遊具、保育用品等：2,778,840円 ・体育用品：1,194,480円	H27事業費：10,875,273円 (事業費の内訳) ・発達相談等の報償金に係る経費：4,275,273円 ・療育事業(集団)の委託に係る経費：6,600,000円 交付金を充当した経費…10,486,000円 (交付金の内訳) ・発達相談等講師謝礼：3,886,000円 ・発達相談(臨床心理士2名) ・言語相談(言語聴覚士2名) ・療育事業委託料(集団)：6,600,000円	

構成事業の取組詳細

<p>(1) こども館整備事業</p>  <p>親子で集うスペースには、絵本やジャングルジムなどの遊具を配置し、1日中過ごせる交流の場を提供。</p>  <p>動こうスペースには、滑り台、卓球台、パドミントン、フラフープなどの体を使って遊べる遊具を配置し、児童の遊び場を提供。</p>  <p>学ぼうスペースには、自習ができるように机や椅子を設置し、児童の学びの場を提供。</p>	<p>(2) 乳幼児発達支援事業</p>  <p>発達相談では、子どもの遊びを観察しながら、ゆったりとした雰囲気の中で相談業務を実施。</p>  <p>言語相談では、主に言語発達について相談を受け、ことばの発達に大切な聴力検査などを実施。</p>  <p>集団療育では、お友達や先生、保護者と一緒に体を動かしたり、手あそびをしたり、子どものペースに合わせて全体発達を促す指導を実施。</p>
--	---

成果（効果）

子育て支援拠点となる、かすやこども館（平成28年5月16日開館）の施設整備に伴い、親子・子ども同士・子育て家庭と地域の交流を深め、子どもの遊び場、学びの場、体験の場や子育てに関する相談の場としての環境を整備した。乳幼児の発達相談の充実や早期療育を支援することにより、子育て世代の悩みの上位に位置する発達について、早い時期から支援を行うことができ、更に必要性が高い乳幼児には早期療育に繋げることで発達の促進が期待できるとともに、保護者が発達特性の理解を深めることで育児不安の軽減や将来を見据えた適切な支援に繋がった。これらのハード、ソフト両面からの事業展開を図ったことにより、安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくりに繋がった。

今後の課題

全国的に少子高齢化が進行する中において、粕屋町で安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりを進めるために、子育て世代のニーズにあった、かすやこども館の適正な運営を図るとともに地域のボランティアなどと協働で子育て支援体制の構築を進める必要がある。
療育対象児は増加傾向にあり、保育所等において対象児を長時間預かることが多くなっているため、保育士等が個々に合わせた具体的支援方法を相談できる体制の構築など、人的な支援を含めた受け入れ体制の整備が必要である。

改善方策

かすやこども館の運営において、利用者アンケートを定期的に実施するなど、ニーズや満足度等の把握を行うとともに、小中学校校長、民生委員・児童委員、地域の子育て支援団体、学識経験者、公募住民等で構成する運営協議会を設置し、適正な運営を図り、子育てしやすい環境づくりを進める。
療育対象児を預かっている保育所等への支援として巡回相談等を実施し、対象児の観察や保育所の先生への助言など直接的な支援を行うことにより、保護者が安心して子育てできる環境を整える。

外部有識者等からの意見

重要業績評価指標（以下「KPI」）は達成できなかったが、KPIの設定が事業内容から捉えて単年度で効果を測るには無理があったと思われる。しかし、子育て支援事業（構成事業：こども館整備事業及び乳幼児発達支援事業）の実施は施策の推進に有効であった。
【具体的意見】
・開館後のこども館利用者数は1日平均280名で当初の想定人数より多く、現在の利用状況からもKPIでは測れない効果は出ていると考える。このような施設は実際に利用してから実感されると思うので、今回のような指標の達成にはタイムラグが生じる。
・1ターンやUターンの際に居住地の選択になるように、こども館等の子育て支援の取り組みを町域外にもPRする検討を行ったほうがよい。
・乳幼児発達支援事業において、育児不安の軽減や将来を見据えた適切な支援に繋がる効果を定量的に分析し、今後の取り組みに活かしたほうがよい。